



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 014 Oct 12, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況(9月20日～24日)

- 週間と畜頭数：61.6万頭(前年比10.7%減)。
- 肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：
主要5市場では、平均83.85ドル(前週比0.38ドル高)。
枝肉価格は平均131.83ドル。
- 牛肉価格：歩留まり等級3(YG3)のチョイスは136.14ドル(前週比2.15ドル高)。YG2～3のセレクトは132.38ドル(同2.98ドル高)。

主要12州¹⁾のフィードロット内頭数²⁾、前年比1.0%増

(2004年9月1日現在)

| | 2004年 ³⁾ | 対前年 |
|--------------------------------|---------------------|--------|
| 8月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾ | 9,853 | 103.0% |
| 8月導入頭数 | 2,099 | 88.0% |
| 8月出荷頭数 | 1,923 | 93.0% |
| 8月のその他の消失 ⁵⁾ | 56 | 93.0% |
| 9月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾ | 9,973 | 101.0% |

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

| 体重(ポンド) | 9月20日～9月24日 |
|--------------|---------------|
| 400～500 | 120.00～146.00 |
| 500～600 | 113.50～122.00 |
| 600～700(子牛) | 111.00～122.50 |
| 600～700(若齢牛) | 120.00～125.00 |
| 700～800 | 113.00～123.00 |
| 800～1000 | 103.75～116.50 |

※2004年9月24日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

- 注: 1.アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン
2.収容頭数1,000頭以上。
3.単位:1,000頭。
4.穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。
5.死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。
※2004年8月20日 Cattle On Feed (Glenn Grimes & Ron Plain)

●牛肉業界の苦戦続く

例年、牛肉の仕入れは9月後半に好転し、秋の生体牛価格再上昇の先駆けとなるのだが、今年はそうした動きが見られない。先週の生体牛価格は、前週比で50セントから1ドル安で推移した。サザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)の生体牛現金取引価格は84～84.50ドル、ネブラスカでは83.50ドルで、横這いもしくは1ドル高を期待した肥育業者を落胆させた。

※2004年9月27日 Cattle Buyers Weekly

●牛肉輸出量、前年比86%減

Cattlenetwork.comによると、2004年度1～7月の米国牛肉輸出総量は、前年の15億ポンドを86%下回り、2億400万ポンドとなっている。多くの小規模輸入国は条件付きで米国産牛肉の輸入を再開したが、大規模輸入国で輸入再開に踏みきったのはカナダ(2004年1月、但し月齢30カ月以下の牛のボンレスビーフ)とメキシコ(2004年3月上旬)にとどまっている。

※2004年9月22日 NAMP Newsfax



米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況(9月20日～24日)

●週間と畜頭数：211.3万頭(前年比6.3%増)。

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は前週比3.00～6.50ドル高。枝肉も前週比で2.57～5.35ドル高。

●豚肉の増産続く

豚肉の大幅な増産が、引き続き牛肉市場に打撃を与えている。豚のと畜頭数は先々週209万3,000頭、先週210万頭と、ここ6週間のうち4週間で200万頭台を記録しており、前年同時期に比べても6%の増加。アナリストは、この時期にこのレベルのと畜頭数は前例がないと述べている。1日に可能なと畜頭数は、41万から41万5,000頭が限度と言われているが、9月7日には40万7,422頭という新記録を出している。

※2004年9月27日 Cattle Buyers's Weekly

主要市場における100ポンド(約45kg)当たりの最高価格(US\$)

| | 9月24日 |
|---------|-------|
| ペオリア | 55.00 |
| セントポール | 60.00 |
| スーフォールズ | 59.50 |
| ミズーリ中央部 | 55.50 |

185ポンド物(約83.5kg)の枝肉平均価格(US\$)

| | 9月24日 |
|------------|-------|
| 東部トウモロコシ地帯 | 77.17 |
| 西部トウモロコシ地帯 | 80.50 |
| アイオワ・ミネソタ | 80.49 |
| 全 国 | 78.91 |

※2004年9月24日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

業界ニュース

●米国マクドナルド、新たな市場消費動向に対応

同社によると、最近では次の5大要因が消費者の購入行動に影響しているという。

- ・高級品の普及 - これまで高級品とされたものも、より多くの消費者が購入可能になった
- ・本物志向 - 新鮮で非加工、あるいは加工を最小限にとどめた食品の追求
- ・健康志向 - 健康的な生活をめざす食品へのニーズが増大
- ・時間的制約 - 両親の長時間労働化
- ・技術の進化 - 高度な新技術への高い順応度

こうした傾向に対して同社は、基幹メニューの継続、健康志向と鮮度を打ち出したヘルシーメニューの導入、セルフオーダーキヨスクやマックカフェの設置、営業時間延長、店舗でのインターネット接続提供等に対応している。またサプライヤーには、小売り現場を直接体験し、消費者ニーズに見合った製品や機器を提供するよう求めている。

※2004年9月22日 Meatingplace.com

●米国政府・州機関が食品危機管理で連携

9月23日、食品安全検査局(FSIS)・食品医薬品局(FDA)と国土安全保障省は、全米州農務省協会と協力体制を組み、2005年6月までに食品・農業関連の危機対応統合計画を実施すると発表した。

早速開始された第1段階では、政府・州・地方機関による作業グループが、現行の州レベルの危機対応制度の情報収集、今後の対応方法を検討する。第2段階では、州や地方が参加し諸機関が連携した対応計画づくりに発展させ、実地テスト・修正を行う。第3段階では州や地方の危機対応に協力する食品・農業担当の政府機関のガイドラインを作成し、これまで以上に適切かつ迅速な各地の対応への支援を図る。

また家畜疾病の予防対策として、イベント出店業者の営業許可証のチェックを厳格に行い、トレーサビリティの向上をめざすサウス・カロライナ州や、1万ドルの政府助成金を活用し基本的作業を見直すバーモント州など、州レベルの努力も行われている。

※2004年9月24日 Meatingplace.com



セーフティー関連
ニュース

●米国消費者のBSEに対する意識調査 - NCBA

全米肉牛生産者・牛肉協会 (NCBA) が実施している月例の消費者意識調査 (9月度) によると、消費者の米国産牛肉への信頼度は、BSEの危険性は認識しながらも、感染発生後も引き続き揺るぎないことがわかった。1986年以来、政府・業界がとってきたBSE予防・公衆衛生保護対策等、食の安全性に関する積極的な消費者教育や、各種の情報提供の努力が功を奏していると思われる。主な結果は以下の通り：()内は2003年9月

「ここ1ヵ月間にBSEについて聞いた」・・・58% (61%)

「USビーフはBSEの危険性がないと信頼」・・・91% (88%)

「今後もBSE発生の可能性あり」・・・1頭以上33%、10頭以上17% - 合計50%

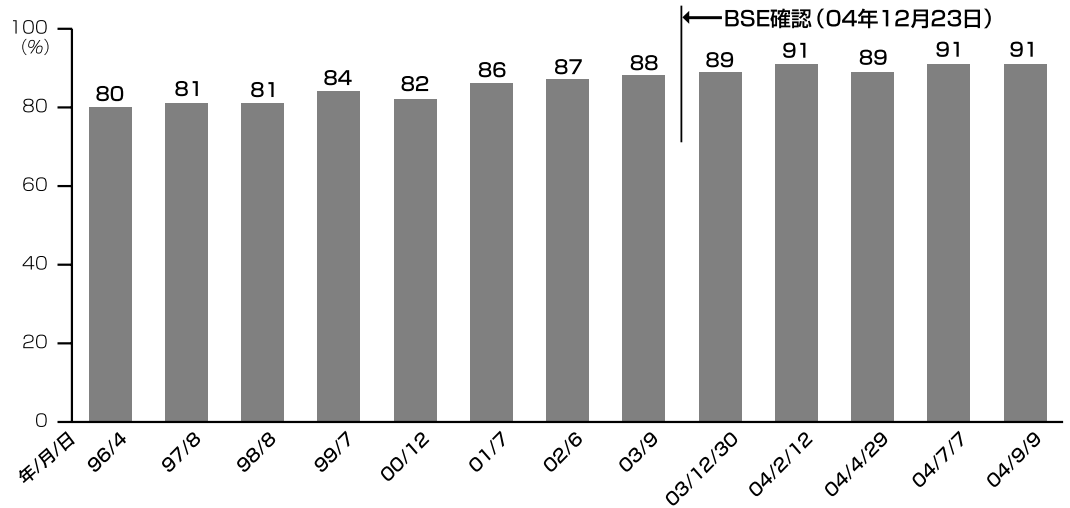
「牛肉消費減少の最大理由」・・・ダイエット/栄養面を考慮46%、価格16%、BSE3%、安全性 (細菌、ホルモン、抗生物質) 1%、調理が面倒1%

「消費者意識：一番関心ある安全課題」

- ・BSEは最大の関心事ではない。
- ・その時の一般のニュース報道。
- ・BSEのことは考えず今後もおいしい牛肉を食べていきたい。
- ・魚の水銀値、鳥インフルエンザ、適切な食品の扱い、調理 (4月度フォーカスグループインタビュー時)

●消費者の信頼度

「米国産牛肉はBSEの危険ないと信頼」と回答したアメリカの消費者 (%)



2004年9月9日 (NCBA提供)